

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471200311
法人名	有限会社 クラスト
事業所名	グループホーム あんど
所在地 (電話番号)	宮城県登米市迫町佐沼字大綱229-3 (電話)0220-21-6777

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19 年 11 月 16 日

【情報提供票より】(19年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 15 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18人
利用定員数計	18人
常勤	15人
非常勤	3人
常勤換算	15.5人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 840 円			

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢 平均	84歳	最低	78歳	最高	100歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上杉皮膚科、やすらぎの里サンクリニック、ちば歯科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者は福祉に思いがあり、両親や地域の高齢者の事を考えてグループホームを設立された。代表者は他県でも介護事業を営み自らも介護に携わっている。「グループホームあんど」には2ユニットで「まちな(昼)」と「そあれ(夜)」と名づけ入居者が24時間安堵出来る支援をしたいという思いが込められている。地域密着型サービス事業所としての理念の見直しをし「地域への生活の場を広げ、多くの人と交流し、入居された方が望む生活」と職員は、そんなケアの実践に心掛けている。代表者も管理者もケアはヒューマンサービスとして理解しており、職員が働きやすい環境づくりに努めている。代表者と管理者は、毎月1回全ての職員と話し合う機会を設け、職員の悩みを聞いたりしている。その後楽しい食事会もある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回特に改善点の指摘はなかったが、ホームが、地域密着型サービス事業所として、指定された意味を皆で考え、理念を見直した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、自分達の日常のケアについて設問項目を一つひとつ点検をし皆で話し合っ、サービスの質の向上に努力する手だてとしている。入居者の介護度が重くなってきたり、医師や家族と連携を取りながら、本人にとって自分らしい暮らしを送れる様支援している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2006年7月に運営推進会議を設置し、以降3ないし4ヶ月ごとに会議を開催している。会議はホームからの運営状況や各種施策を報告した後、参加者との意見交換をしている。又、評価機関からの評価結果や行政指導の結果を報告するとともに、その改善策も提起している。委員は18人で入居者の家族代表、住民代表、行政職員で、入居者の代表が入っていない。議事録はまだ公表していない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者は意見や苦情はサービスの質の向上にとって貴重な情報源であるという事をよく理解している。家族が訪問した時には、入居者のホームでの生活の様子や体調などを出来るだけ詳しく話し、家族からもいろいろ話を聞いている。来られない家族には、月1回は暮らしぶりや健康状態を報告している。日常的に、家族の意見や希望は出来るだけとり入れる様にしており、敬老会の場所や会の進めかたに家族の意見を取り入れ楽しい会になったと家族も喜んでいて。家族会はまだ結成されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域密着型の考え方は「地域住民との交流の下に」といわれるように、「地域の生活の継続」と「地域との関係強化」を具体的に日常生活支援の中に活かしたいとしている。中学生の総合学習としての体験学習の取り入れや、子供会のみこしの訪問等、又、歌や踊りのボランティアも来られ、入居者と交流している。また災害訓練などにも地域の人にも参加して頂いている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが、地域密着型サービス事業として指定されたのを機会に、職員皆で理念の見直しをしている。「地域への生活の場を広げ、多くの人との交流や入居される方が望む活動が出来るよう」そんな生活支援、ケアをすとし実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、「理念」がケアの実践に活かされてこそ意味がある事を理解している。日々の申し送り、ミーティングやカンファレンスでも又、課題があれば「理念」に基づいて判断している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は、地域密着型サービス事業の考え方「地域住民との交流の下に」という基準省令の主旨をよく理解している。近くの中学校の総合学習としての体験学習、子供会の「おみこし」の訪問や、歌や踊りのボランティアの方も来られ入居者と交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、自分達の日常のケアについて設問項目1つひとつを皆で話しあってサービスの質の向上の手だてとしていた。話し合った結果は、管理者と介護主任でまとめられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はグループホームが地域密着型の事業所として、地域に開かれたものとして認められる役割もある。運営推進会議は「基準省令では凡そ2ヶ月に1回以上」になっている。回数の見直し、会議の委員には入居者や知見を有する人も参加が望ましい。会議の議事録は、地域の理解者にも配布し公表して頂きたい。	○	運営推進会議は、委員の双方向性の話し合いを通して地元の関係者との繋がりを広め、事業所の理解を広め協力が増える様、委員、回数(現在3ヶ月～4ヶ月に1回)公表等に一層の努力をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市の担当者との交流の機会を積極的にもって指導助言を頂いている。先日も指導監査があり、指示事項はなかったがいろいろ参考になる話があった。「認知症になっても安心して住める町づくり」(厚生労働省の10ヵ年構想)に市と連携していろいろな事業もお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した時は、ホームの生活の様子や体調など出来るだけ詳しく話をしている。又、預金の使用状況は小遣帳を見せるなど細かに報告をしている。来られなかった家族には月1回は、暮らしぶりや健康状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、意見や苦情はサービスの質の向上にとって貴重な情報源である事を良く理解している。敬老会の場所や進め方なども家族の意見を取り入れ楽しい会になったと家族からはお礼は言われている。未だ家族会はない。	○	家族同士が集まって話し合いをする事によって、運営についても建設的な意見を出し合ったり、イベントなどにも参加して頂き、入居者も家族も楽しいひと時を過ごす事が出来るような家族会の発足を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、認知症高齢者が場所や介護者が変わること意識を混乱する事や、入居者と職員の馴染みの関係から信頼関係が生まれる事の大切さを理解している。職員の働き甲斐のある職場にしようと社長も管理者も職員との人間関係を大事にし、代表と管理者は月1回は全職員と話し合い職員の悩みなどを聞いている、その後に楽しい食事会もある。処遇などにも配慮されており離職者も少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームは対人関係を大切にしたヒューマンサービスとも言われている。管理者は職員の資質の向上が基本である事を理解しており、計画的に職員を研修に参加させている。「認知症介護実践研修」は全員参加を目指している。又、資格取得にも積極的に支援しケアの励みにもなるよう手当も考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内には同業者もあり、お互いに良い点を学びあえるよう交流研修をしている。又、仲間づくりにもなりストレス解消の一助にもなっている。ホームは、全国グループホーム連絡協議会にも加入し、いろいろな情報も受け、地方ブロックの研修にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者は、家族にホームに入れられたという思いの人が多く、ここでは、出来るだけ入居者にも家族にもホームを見て頂き話し合いをし、少しでも馴染みの関係をつくって入居して貰える様努めている。必要によってはホームに馴染むまで、家族と一緒に1週間、宿泊した例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の信頼関係を作るために、挨拶ひとつにしても大切にしている。擬似家族としてどうあれば良いか職員は入居者の立場で個別ケアを考えている。職員は、人生の先輩として入居者から「手続き気憶」として残っている事を通して教わる事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向を把握する為に職員と2人でしんみり話し合ったり、何気ない言葉に思いが込められている事もあり、その思いも「メモ」しケアに活用している。声が出ない人には読唇術を身につけたり、手話の出来る職員も居り、表情や動作等も含めて入居者の思いを感じ取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームケアの基本になる介護計画は、本人や家族の思いをどうケアに活かすかケアカンファレンス等で関係者で良く話し合われている。計画は個別具体的になっている。入居者か家族には同意を貰い、家族には計画書を渡している。最近ケアプラン作成に認知症介護研究研修東京センター方式が利用されており参考になると思われる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ホームでは、見直しは定期的には3ヶ月に1回実施している。状態の変化があれば随時見直しをしている。状態の変化は主に医療との関係の中で行なわれている。脳梗塞で退院した時等は見直しのいい例である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	この支援は入居者の状態に応じて柔軟に対応する事を目的としている。条件はあるが必要によって小規模多機能的なサービスが可能になった。ショートステイやデイサービス等も可能になり今後の検討課題である。医療機関への受診や外出等には必要に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が一番心配している医療との関係については職員は入居者の健康に特に注意しており家族も感謝している。管理者は看護師としての人脈もあり、医師との関係もよく訪問診療などにも対応して頂き、職員も心強い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	良いケアをすれば馴染みの関係ができ、家族や本人が人生の最後までお世話になりたいという気持ちは理解できる。ホームは入居者の重度化や看取りの介護の指針をつかっており、入居時に同意書をお願いする事になっている。職員、家族そして医療との連携によって入居者の気持ちを尊重したいとしている。市に「在宅介護支援診療所」がどれだけあるか、24時間の医療体制の要であるだけに確認して頂きたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を人生の先輩として尊厳をいかに大切にするか皆で話し合っケアをしている。プライバシーについても、個人情報保護法の精神を理解し指針を作って対応している。人間として大切な排泄行為に対しての支援は特に気を使っている。又、広報については本人や家族の了解を得て必要な情報は発信して頂きたい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は個別ケアである事を良く理解している。、その人の思い、その人のペースを尊重するケアに努めている。急に話題になって、新しいスーパーが出来たから行きたいと言う人がいれば、予定を調整しても出かけるようにしている。管理者は、フリーで何時でも手の足りない時にバックアップ出きる体制になっており心強い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみですという利用者が多い。それに答える為にも嗜好調査も日常の生活の中で行なっている。刺身、味付けご飯、行事食、アンコールに応えるなど、如何に美味しい食事にするか努めている。職員も皆と一緒に同じものを食しながらそれとなくケアし、楽しい食事会になるよう気を使っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は衛生的な考えだけでなく、入りたい時に何時でも気持ち良く入って頂ける様努めている。季節によって、菖蒲湯にしたり、ゆず湯にしたり、又、入浴剤を変えたり変化をつけて楽しんで頂いている。入浴を拒否する人には、その原因を掴んで上手に対応し入って頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴など個人情報をもよく把握し、残っている能力を引き出しながらその人の出来る事、楽しみ事などが出来る様に配慮している。100才になる男性の入居者が皆の食後のおしぼりを洗って干したり、庭の花の手入れを一人で自分の役割として行なっている。それぞれの役割(料理、園芸、裁縫等)が決まっていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は車でドライブも好きだと言う。車椅子の方でも利用出来る、フリークライニング席の車を購入し出来るだけ外に出るようにしている。行きたい時に行きたい所に、出来るだけ行かれるよう管理者も現場をカバーしながら対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中玄関に鍵をかける事の異常性を良く理解しており日中玄関に鍵を掛けていない。職員がそれぞれ、それとなく見守りをしており、又、近所の人も協力し見守ってくれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	宮城沖大地震や火災を想定した災害に対する訓練を年3回は実施し、うち一回は消防署立会いである。夜間想定した訓練も実施しており近所の人や家族も参加する事もある。ミーティングの後は職員だけで外に出て火事だと大きな声を出し、初期消化の訓練もしている。地震の時は、震度によって職員が自主的に駆け付ける体制も出来ている。非常食料や水は備蓄している。特に雨水を濾過して使えるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は入居者の個人の好みも勘案しながらスタッフが交代で作り、管理者が調整している。栄養のバランス等は管理者の友人の栄養士から3ヶ月に1回を目途に指導助言を頂いている。個々の食事の量や水分摂取量などは記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井からの光線が柔らかく木の暖かさを感じた。臭気や空気のよどみのようなものは感じられなかった。居間兼食堂は床暖房で加湿器もあり心地よい環境になっていた。共用空間には、造花や絵や季節の花やインテリアも適度に飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方にとって馴染みの物が如何に大事か、管理者は家族に良く説明し出来るだけ日常使っていたものを持ってきてもらっている。入居者はベッド、寝具、たんす、テレビ等持ちこんでおり、なかには足のマッサージ器を持ってきた人もいて、なにかほっとするものが感じられた。		